

<「知るっば！久留米」 令和3年12月23日(木) 12:30~放送分>

みみて楽しむ久留米の昔話 ～第4回～ 「朝日寺」

<ゲスト：久留米シティプラザ事業制作課 竹下久美子さん>

《音源：みみて楽しむ久留米のむかし話6》

『朝日寺(ちょうにちじ)』

今の三潞地方に、三池長者と呼ばれる藤吉種継(ふじよしたねつぐ)という人がいて、そのひとり娘が、評判のきりょうよしだったそうです。

娘は一人の若者に会いました。

その若者は、平康頼(たいらのやすより)といって、平家一門を討とうという話し合いがばれて、お坊さんの俊寛(しゅんかん)らと鬼界ヶ島(きかいがしま)に流されておりましたが、その罪が許され、都へ帰る途中だったのです。

その康頼が、娘を一目見たときから、好きになってしまいました。

たった一晩の宿でしたが、娘のほうも生まれて初めて、この若者に心を許しました。

それからしばらくたって、娘は男の子を生みました。

なんと不思議なことでしょうか、その子の口からは、光がさしてておりました。

「こりゃどげんしたことじゃろか。なんかおそろしかこつがおこるばい。」

種継は、自分の娘が罪人の子を生んだといわれるのがこわくて、

その赤子を草むらの中に捨ててしまいました。

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です！

今月は、久留米シティプラザが無料動画配信サイト(YouTube)で配信中の

『みみて楽しむ久留米の昔話』をテーマにお送りしています。ゲストはこの方です。

ゲスト：竹下さん(以下「竹下」)

こんにちは。久留米シティプラザ事業制作課の竹下久美子です。

よろしくお願いします。

坂本 第4回目の今週は、『朝日寺』をテーマにお送りします。

さっきのお話ですが、生まれてきた赤ちゃんの口から光が出ていたら、それは驚くでしょうね。

竹下 驚くと思います。このあと、連れて帰ってくれた方がいて、本当によかったですね。

赤ちゃんが捨てられていた草むらは、今の善徳寺小学校と伝わっていて、

小学校の敷地内には石碑もあるそうです。

坂本 タイトルになっている朝日寺も、大善寺駅の近くにありませんよね？

竹下 昔話によると、この赤ちゃんは、栄尊（えいそん）大和尚と呼ばれる立派な僧になり、自分の生まれた大善寺に朝日寺を建てました。
朝日寺の名前の由来は、お母さんが赤ちゃんを身ごもったときに、「朝日を飲み込む夢を見た」からだそうです。

坂本 聞くところによると母親は三瀨に住んでいた藤吉種継の娘、父親が平家の方なんですかね？

竹下 平康頼は平の姓ではあるのですが、平家を討とうと画策したことが漏れて、島流しされた人物です。鹿ヶ谷（ししがたに）の陰謀といわれる 1177 年の出来事です。ただ、翌年、安徳天皇が誕生した恩赦で、1178 年には罪を許されて都に戻っているんです。

坂本 なんか裏切り者なのに・・・という感じですね。

竹下 そうですね。何か徳を積んだのかなと思うんですが。
栄尊和尚は 1195 年に生まれたとされるので、平康頼が島から戻る途中で久留米に立ち寄ったとすると、16 年も開きがあるんですよ。

坂本 時系列がずれていたり、合わなかったりするの、言い伝えではまあよくあることだね。何が正しいとするのかは難しいと思いますが、でもそれもロマンということですかね。

竹下 一方で、先週ご紹介した『名剣大明神』では、生き延びた安徳天皇が 16 歳のときに結婚したのが、この藤吉種継の娘とされています。栄尊和尚の誕生した年が、ちょうど安徳天皇が 16～17 歳のころなので、父親は安徳天皇なのでは、という説もあるようです。
800 年以上も昔のお話ですから真実はわかりませんが、安徳部としては、安徳天皇説に一票を投じたいところですね。

坂本 そうすると、またお話が膨らんでくるということですよ。
栄尊和尚も謎が多い人物なのですね。朝日寺へは行ったことがありますか？

竹下 それ、まだ行けてないんです。
栄尊和尚の立派な木像があるそうなので、一度ぜひ拝観したいと思っています。
大善寺小学校なら何度か訪れたことはあるんですが、当時はこのお話を知らなかったの、小学校のみなさんがこの昔話を知っているのか、ぜひ聞いてみたいですね。

坂本 ところで、今月はラジオドラマの話をしているのですが、その元になっている「久留米のむかし話」の本はどこで見ることができるのですか？

竹下 全部で5冊あるのですが、発行したのは地元の小学校の先生のOBのみなさんでした。
市内の図書館やコミセンに寄贈したと聞いています。
私は久留米市図書館と六ツ門の分室、あと南コミセンでも見かけましたよ。

坂本 学校の先生方が作った絵本だったんですね。

竹下 オーディオドラマ化のご相談をしたところ、快諾していただきました。
1つだけ出された条件は、「方言は、きちんと発音してください」です。
朗読は、安徳部の活動に初期から参加してくださっている福岡の演劇人、
山下キスコさんと井口誠司さんが担当してくださりました。
収録の際は、久留米出身のネイティブのスタッフが方言指導で立ち会いました。

坂本 方言の発音は大事ですね。
私も久留米弁のネイティブやけん、お手伝いしきるですよ。(笑)

竹下 では、次の機会にはぜひよろしくお願いします。

坂本 同じ九州でも微妙にイントネーションが違ってて、博多と久留米も違いますし、
なんなら久留米と八女とか、久留米と日田とか浮羽とかでも違うと思うんですよね。
なかなか奥が深いということです。

竹下 昨年、第一回目の『知盛の墓』を公開したあと、市民の方からお電話があって
「ぜひCD化して、小学校の給食の時間に流してほしい」とリクエストもいただきました。

坂本 子どもたちにこそ、郷土の歴史や言い伝えをぜひ知ってほしいですね。
そして、その子供たちがまた次につないでいてほしいと思いますね。
竹下さん、今回も興味深いお話をありがとうございました。お時間になったようです。
他にもいろいろな昔話が、久留米シティプラザのホームページや YouTube サイトにありますので、
ぜひ聞いてみてください。
次回は草野町の『筑紫楽(つくしがく)のはじまり』をテーマにお聞きます。
お楽しみに。